

移り行く時の中で

コンセプト

普段は都心に住む家族が、休日に体と心を休めるための週末住宅を提案する。

...

人は歳をとるにつれ、時間が早くすぎているかのように感じ、幼かった時の記憶は段々と薄れていく。現代の多忙な社会では尚更だ。

この建物の中からは鬱陶しい街は見えない。廊下の窓からは木々と動植物、先週植えた向日葵の芽が見える。ホールからは水色の空に雲が続々と流れるのが見える。

連続した廊下、ホール、スロープのそれぞれのヴォリュームで、地面を基準とした目線の変化によって気づく時間、成長を感じ取ってもらいたい。訪れるたびに変化する自分自身の成長に目を向け、刻一刻と流れる時間をこの建物は見せてくれる。

...

家族構成

チェロ奏者の夫 (35)

バイオリン奏者の妻 (32)

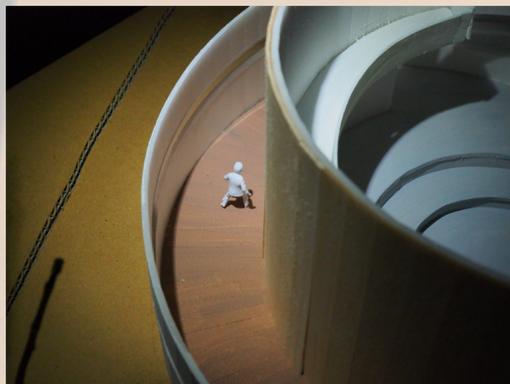
息子 (7)、娘 (3)

敷地

栃木県那須郡

自然豊かな地域であり、東京から2時間程度でつく。

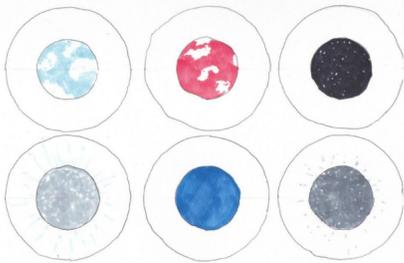
バイパス道路から私道を少し上がった場所に位置する。



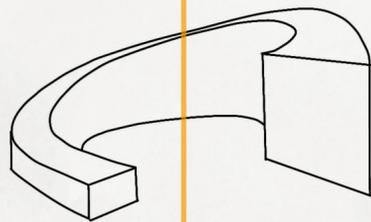
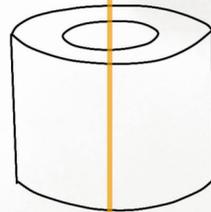
中心に向かうにつれ
高次元化



切り取られた天井



天井の中央部が切り取られていて空と繋がっている切り取られた開口部から四季を通じて朝から夜まで絶え間なく変化する光と時間の流れを体感することができる。



630

玄関入り口

にじり口と同じ寸法の扉を設置

成長の廊下の端部に設けられたこの扉は物語の始まりを表す。

この扉を通るために荷物を一旦外し無防備な状態（生まれたばかりの原始的な状態）にする。

日常で使わない扉を使うことで非日常的な空間にいることを意識させる。

俯瞰するスロープ

ホール中心を見下ろしながらスロープを登っていく廊下、ホールより高い位置から見下ろすことで自分自信を俯瞰して見ることができる。

音楽や空を通して感じたこと、考えたこと、出会い、ハプニングなどを振り返りながら登る。

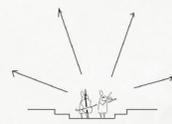
ホールとしての効果



全て閉じている
反響音が残りにすぎて不快



一部空いている
空間に音が適度に残る



閉じていない
音が発散して聴こえずらい

成長の廊下



廊下を進むにつれ窓と天井の高さが変わる。

子供→成長するにつれ見える外の世界が増えていることを実感する。

大人→幼い頃の目線に立ち返り自身の

成長を振り返る。

柱に身長を刻む慣習を動的な廊下空間に昇華

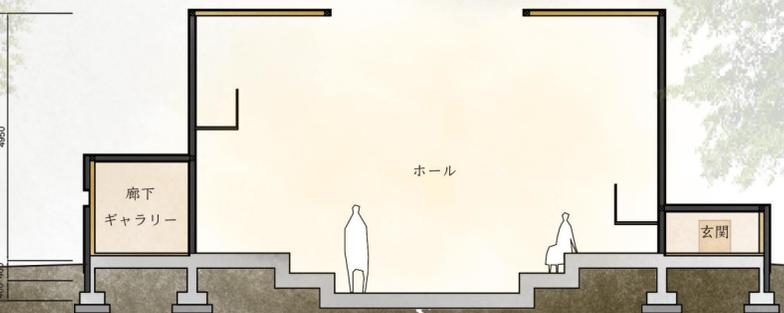
20000



20000

4000

S=1/100



S=1/100